

内科専門医研修プログラム	P.1
専門研修施設群	P.16
専門研修プログラム管理委員会	P.59
各年次到達目標	P.60

## 1.理念・使命・特性

### 理念【整備基準1】

1) 本プログラムは、神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院である済生会横浜市南部病院を基幹施設として、神奈川県横浜市南部医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て神奈川県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として神奈川県全域を支える内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

### 使命【整備基準2】

1) 神奈川県横浜南部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

## 特性

- 1) 本プログラムは、神奈川県横浜南部医療圏の中心的な急性期病院である済生会横浜市南部病院を基幹施設として、神奈川県横浜市南部医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間の3年間になります。
- 2) 済生会横浜市南部病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である済生会横浜市南部病院は、神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である済生会横浜市南部病院での2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P40別表1「各年次到達目標」参照）。
- 5) 済生会横浜市南部病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である済生会横浜市南部病院での2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします（P40別表1「各年次到達目標」参照）。
- 7) 日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために、提示されている症例数（P40別表1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく、研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います。

## 専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療

を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、神奈川県横浜市南部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

## 2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)~7)により、済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムの専攻医の上限は1学年6名とします。

- 1) 済生会横浜市南部病院内科後期研修医は現在3学年併せて12名で1学年3~5名の実績があります。
- 2) 雇用人員数に一定の制限はありますが、募集定員の増加は可能です。
- 3) 済生会横浜市南部病院の各内科 Subspecialty 診療科に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を数名の範囲で調整することがあります。内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくとい良いでしょう。
- 4) 剖検体数は、2021年度14体、2022年度15体、2023年度11体です。

表. 済生会横浜市南部病院診療科別診療実績

2023年度実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	22,788	23,910
循環器内科	11,775	14,835
糖尿病・内分泌内科	5,311	9,863
腎臓高血圧内科	7,601	7,731
呼吸器内科	9,273	13,941
神経内科	5,700	6,880
血液内科	6,591	8,478
救急診療科	61	1,576

- 5) 膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 6 名に対し十分な症例を経験可能です。
- 6) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.16「済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群」参照）。
- 7) 1 学年 6 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 8) 専攻医 3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には，高次機能・専門病院 4 施設，地域基幹病院 15 施設および地域医療密着型病院 2 施設，計 21 施設あり，専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 9) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です。

### 3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】 [「内科研修カリキュラム項目表」参照]  
 専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます。  
 「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします。
- 2) 専門技能【整備基準 5】 [「技術・技能評価手帳」参照]  
 内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の **Subspecialty** 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

### 4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8～10】（P.43 別表 1「済生会横浜市南部病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）  
 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

#### ○専門研修（専攻医）1 年:

- ・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録します。以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します。
- ・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，**Subspecialty** 上級医とともに行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，**Subspecialty** 上級医およびメディカルスタッフによる

360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2年:

- ・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、通算で少なくとも45疾患群、120症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）への登録を終了します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる
- ・360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年:

- ・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上（外来症例は1割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）にその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約29症例の受理と、少なくとも70疾患群中の56疾患群以上で計160症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

済生会横浜市南部病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。

一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にSubspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。内科専門研修開始時に将来のSubspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくことで良いでしょう。

2) 臨床現場での学習【整備基準13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示さ

れているいずれかの疾患を順次経験します（下記1）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは **Subspecialty** の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）と **Subspecialty** 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センターの内科外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、**Subspecialty** 診療科検査を担当します。
- ⑦ 日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために、提示されている症例数（P 40 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく、研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います。

### 3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（済生会横浜市南部病院 2023 年度実績 13 回）  
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ CPC（済生会横浜市南部病院 2023 年度実績 12 回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス（各科にて実施・合計 25 回程度/年）
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（済生会横浜市南部病院：内科体験学習集談会、地域連携研修会、がん診療支援センター研修会、感染研修会、消化器病症例検討会；2023 年度実績約 60 回）
- ⑥ JMECC 受講（済生会横浜市南部病院：2023 年度開催実績 0 回）  
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。済生会横浜市南部病院での開催の準備を進めますが連携施設での受講の可能性があります。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会  
など

### 4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として

自ら経験した), B (間接的に経験している (実症例をチームとして経験した, または症例検討会を通して経験した), C (レクチャー, セミナー, 学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した) と分類しています. (「研修カリキュラム項目表」参照) 自身の経験がなくても自己学習すべき項目については, 以下の方法で学習します.

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題など

#### 5) 研修実績および評価を記録し, 蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム (仮称) を用いて, 以下を web ベースで日時を含めて記録します.

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に, 通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します. 指導医はその内容を評価し, 合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します.
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し, 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード (仮称) によるピアレビューを受け, 指摘事項に基づいた改訂を受理 (アクセプト) されるまでシステム上で行います.
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等 (例: CPC, 地域連携カンファレンス, 医療倫理・医療安全・感染対策講習会) の出席をシステム上に登録します.

#### 5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は, 施設ごとに実績を記載した (P.16「済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群」参照). プログラム全体と各施設のカンファレンスについては, 基幹施設である済生会横浜市南部病院臨床教育センター (仮称) が把握し, 定期的に E-mail など専攻医に周知し, 出席を促します.

#### 6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず, これらを自ら深めてゆく姿勢です. この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群は基幹施設, 連携施設, 特別連携施設のいずれにおいても,

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
- ② 科学的な根拠に基づいた診断, 治療を行う (EBM:evidencebasedmedicine).
- ③ 最新の知識, 技能を常にアップデートする (生涯学習).
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します. 併せて,

- 1.初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
- 2.後輩専攻医の指導を行う.
- 3.メディカルスタッフを尊重し, 指導を行う.  
を通じて, 内科専攻医としての教育活動を行います.

## 7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。  
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

## 8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である済生会横浜市南部病院臨床教育センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナルリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

## 9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県横浜市南部医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成されています。

済生会横浜市南部病院は、神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地



域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディージーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、神奈川県立がんセンター、神奈川県立循環器呼吸器病センター、地域基幹病院である藤沢市民病院、横浜医療センター、横浜南共済病院、横須賀市立市民病院、大和市立病院、大森赤十字病院、秦野赤十字病院、保土ヶ谷中央病院、足柄上病院、国際医療福祉大学熱海病院、茅ヶ崎市立病院、国立病院機構相模原病院、横浜労災病院、横須賀市立うわまち病院、横浜栄共済病院および地域医療密着型病院である済生会若草病院、港南台病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、済生会横浜市南部病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群(P.16)は、神奈川県横浜市南部医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成しています。最も距離が離れている医療機関でも済生会横浜市南部病院から電車、バスを利用して、1時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

特別連携施設である港南台病院での研修は、済生会横浜市南部病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行います。済生会横浜市南部病院の担当指導医が、港南台病院の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。

## 10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

済生会横浜市南部病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

済生会横浜市南部病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために、提示されている症例数（P.40 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく、研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います。

## 11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

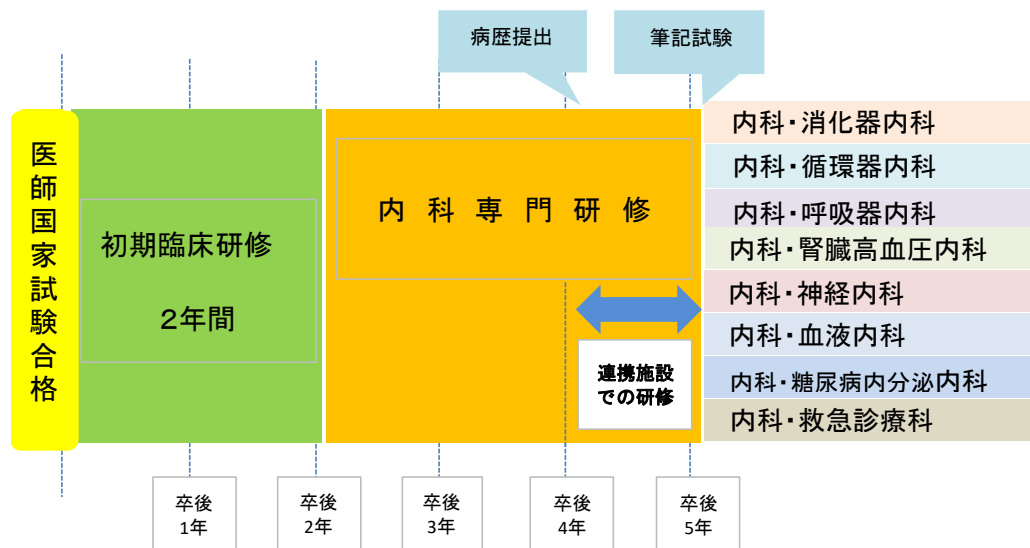


図1. 済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である済生会横浜市南部病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に2年間の専門研修を行います。

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度，メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）および研修施設群の各医療機関の状況などを基に，専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間，連携施設，特別連携施設で研修をします（図1）。なお，カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修も可能です（個々人により異なります）。内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくことが良いでしょう。

## 12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

### (1) 済生会横浜市南部病院臨床教育センターの役割

- ・済生会横浜市南部病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- ・済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを行って，改善を促します。
- ・臨床教育センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数

回（8月と2月，必要に応じて臨時に）行います。担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します。評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で，臨床教育センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から形式的にフィードバックを行います。

- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

## (2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床教育センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います。
- ・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時まで 29 症例の病歴要約を順次作成し，J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形式的な指導を行う必要があります。専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

## (3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに済生会横浜市南部病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します。

## (4) 修了判定基準【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，以下 i)～vi)の修了を確認します。
  - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済み（P.55 別表 1「年次到達目標」参照）。

- ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
  - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
  - iv) JMECC 受講
  - v) プログラムで定める講習会受講
  - vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 済生会横浜市南部病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に済生会横浜市南部病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」, 「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画 (FD) の実施記録」は、J-OSLER を用います。なお、「済生会横浜市南部病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】(P.45) と「済生会横浜市南部病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】(P.52) と別に示します。

### 13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37~39】

(P.39「済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

- 1) 済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
- i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに内科指導医）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.39「済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）。済生会横浜市南部病院内科専門研修管理委員会の事務局を臨床教育センターにおきます。
  - ii) 済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する済生会横浜市南部病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。  
基幹施設、連携施設ともに、毎年 5 月 31 日までに、済生会横浜市南部病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。
- ① 前年度の診療実績
    - a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1 か月あたり内科外来患者数, e) 1 か月あたり内科入院患者数, f) 剖検数
  - ② 専門研修指導医数および専攻医数
    - a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数。
  - ③ 前年度の学術活動
    - a) 学会発表, b) 論文発表
  - ④ 施設状況
    - a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催。

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急診療科専門医数

#### 14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

#### 15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1 年目，2 年目は基幹施設である済生会横浜市南部病院の就業環境に，専門研修（専攻医）3 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.16 「済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である済生会横浜市南部病院の整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・済生会横浜市南部病院非常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康管理室）があります。
- ・ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院内に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.16 「済生会横浜市南部病院内科専門施設群」を参照。また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります。

#### 16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医，施設の内科研修委員会，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムを評価します。
- ・担当指導医，各施設の内科研修委員会，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

### 3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

済生会横浜市南部病院臨床教育センターと済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会は，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

## 17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年 6 月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は，済生会横浜市南部病院臨床教育センターの website の済生会横浜市南部病院医師募集要項（済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。

ただし，正式な期日は日本専門医機構内科領域認定委員会の定めによります。

(問い合わせ先)人材開発室

E-mail: [kenshuui@nanbu.saiseikai.or.jp](mailto:kenshuui@nanbu.saiseikai.or.jp)

URL: <http://www.nanbu.saiseikai.or.jp/>

済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

## 18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いて済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します。これに基づき，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継

続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、**J-OSLER** への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

## 済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群

研修期間：3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）

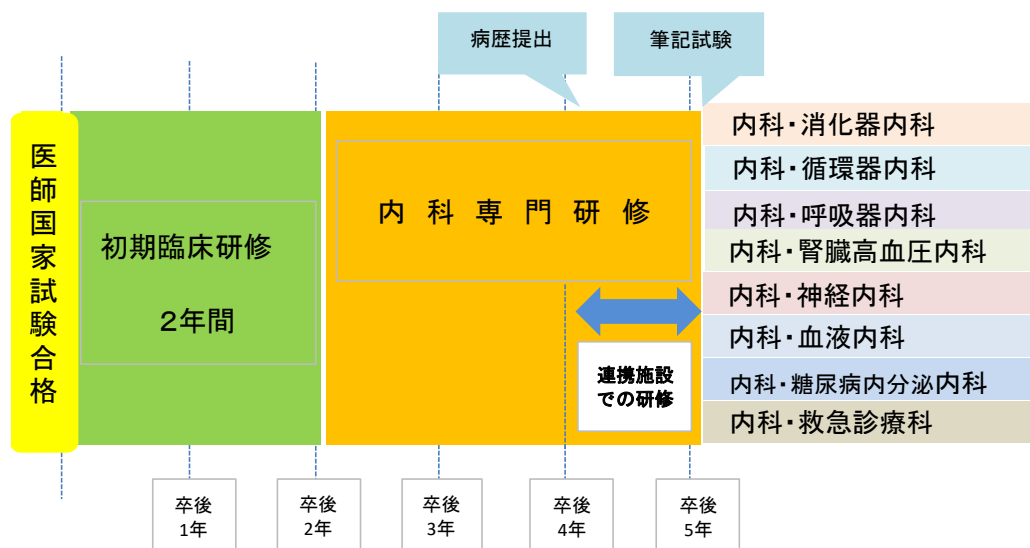


図1. 済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム（概念図）

表1. 各研修施設の概要（2023年度 剖検数：2017年度）

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	済生会横浜市南部病院	500	197	8	14	12	11
連携施設	横浜市立大学附属病院	654	166	9	81	49	41
連携施設	横浜市立大学附属市民総合医療センター	676	184	10	40	23	10
連携施設	神奈川県立がんセンター	415	140	6	14	11	21
連携施設	神奈川県立循環器呼吸器病センター	239	199	3	14	13	7
連携施設	藤沢市民病院	536	234	9	17	15	12
連携施設	横浜医療センター	510	175	8	12	8	8
連携施設	横浜南共済病院	591	209	8	15	9	11
連携施設	横須賀市立市民病院	482	210	9	8	9	6
連携施設	済生会若草病院	199	24	1	0	2	0
連携施設	秦野赤十字病院	320	92	6	9	6	2
連携施設	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	223	100	7	7	4	1
連携施設	神奈川県立足柄上病院	264	118	4	8	7	2



連携施設	国際医療福祉大学熱海病院	269	100	8	8	7	6
連携施設	大森赤十字病院	344	172	7	21	17	7
連携施設	大和市立病院	403	164	8	13	8	6
連携施設	茅ヶ崎市立病院	401	168	8	22	13	10
連携施設	国立病院機構相模原病院	458	196	8	23	18	13
連携施設	横浜労災病院	650	225	12	22	22	5
連携施設	横須賀市立総合医療センター（うわまち病院）	417	131	9	11	11	9
連携施設	横浜栄共済病院	430	170	7	11	10	2
特別連携施設	港南台病院	84	60	6	0	0	0
研修施設合計		8218	3128	145	344	245	183

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
済生会横浜市南部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
横浜市立大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学附属市民総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神奈川県立がんセンター	△	○	△	×	×	×	○	○	×	×	×	△	×
神奈川県立循環器呼吸器病センター	○	×	○	△	△	×	○	×	×	○	△	○	△
藤沢市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
横浜南共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会若草病院	△	△	△	×	△	×	△	×	×	×	×	△	△
港南台病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△

横須賀市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
秦野赤十字病院	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×
横浜保土ヶ谷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
神奈川県立足柄上病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際医療福祉大学熱海病院	△	○	○	○	○	○	○	×	○	○	△	△	○	○
大森赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
大和市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
茅ヶ崎市立病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○
国立病院機構相模原病院	○	○	○	△	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○
横浜労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横須賀市立総合医療センター （うわまち病院）	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎
横浜栄共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○、△、×)に評価した。  
 (○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない)

## 専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。済生会横浜市南部病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県内の医療機関から構成されています。

済生会横浜市南部病院は、神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、神奈川県立がんセンター、神奈川県立循環器呼吸器病センター、地域基幹病院である藤沢市民病院、横浜南共済病院、横浜医療センター、横須賀市民病院、大森赤十字病院、大和市立病院、秦野赤十字病院、保土ヶ谷中央病院、足柄上病院、国際福祉医療福祉大学熱海病院、国立病院機構相模原病院、茅ヶ崎市立病院、横浜労災病院、横須賀市立うわまち病院、横浜栄共済病院および地域医療密着型病院である済生会若草病院、港南台病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、藤沢市民病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

## 専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・ 専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・ 病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間、連携施設・特別連携施設で研修をします（図 1）。

なお、カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修も可能です（個々人により異なります）。内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくとう良いでしょう。

## 専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

神奈川県横浜市南部医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。最も距離が離れている連携研修施設でも済生会横浜市南部病院から電車、バスを利用して、1 時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

## 1) 専門研修基幹施設

済生会横浜市南部病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・済生会横浜市南部病院シニアレジデント医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康管理室）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 13 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023 年度実績 医療倫理（複数回開催）、医療安全 7 回（各複数回開催）、感染対策 11 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（2023 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催（2023 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2023 年度実績 地域連携研修会 6 回などを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。</li> <li>・特別連携施設（港南台病院）の専門研修では、電話や週 1 回の済生会横浜市南部病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っています（2023 年度 11 体）</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究が可能な図書室などが整っています。</li> <li>・医療倫理委員会を設置し開催されています。</li> <li>・臨床教育センター（臨床教育センター運営委員会年 4 回）や治験事務局（治験審査委員会年 12 回）が設置されています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表を予定。（2023 年度日本内科学会発表総数：2 演題、学会発表数(内科系学会の発表数：29 演題)</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>猿渡 力</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>済生会横浜市南部病院は横浜南部地域の基幹病院であり、急性期病院として専門的、先進的医療、救急医療における地域の中心的役割を果たしている。地域医療の充実とともに質の高い内科医の育成のため内科専門医制度プログラムの基幹施設としてまた藤沢市民病院を基幹施設とするプログラムの連携施設として内科専門研修を行います。</p>
<p>指導医数（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、ほか</p>

外来・入院 患者数	外来患者 416名 (1日平均) 入院患者 193名 (1日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器病学会認定施設 日本アレルギー学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本環境感染学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本甲状腺学会専門医施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床腫瘍学会研修施設 など

## 2) 専門研修連携施設

### 藤沢市民病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 藤沢市非常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</li> <li>・ ハラスメント委員会が藤沢市役所に整備されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医は 18 名在籍しています（下記）。</li> <li>・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017 年度予定）を設置します。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ CPC を定期的に行う（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、湘南地域救急医療合同カンファレンス、藤沢市内科医会循環器研究会、藤沢市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会；2015 年度実績 30 回）を定期的に行うし、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017 年度予定）が対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・ 専門研修に必要な剖検（2016 年度 8 体（2017 年 2 月 8 日現在）、2015 年度 12 体、2014 年度 6 体、2013 年度 10 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。</li> <li>・ 倫理委員会を設置し、定期的に行う（2015 年度実績 12 回）しています。</li> <li>・ 治験管理室を設置し、定期的に行う受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。</li> <li>・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>常田康夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>藤沢市民病院は、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、湘南東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を</p>

	<p>践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 3 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 12,819 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 489 名 (1 ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本肝臓学会教育関連施設など</p>

横浜市立大学附属病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。</li> <li>・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が 81 名在籍しています（下記）。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 129 回、感染対策 32 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ CPC を定期的開催（2015 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 21 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>前田 慎 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合内科専門医 49 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 11,655 名（1 ヶ月平均） 入院患者 4,545 名（1 ヶ月平均延数）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携 経験できる疾患群</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>学会認定施設（内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育</p>



施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医  
制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大  
腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経  
学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学  
会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年  
医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修  
施設 ICD/両室ペースティング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥  
満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認  
定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 スtentグラフト実施施設 日本緩  
和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インタ  
ーベンション治療学会研修施設 など

横浜市立大学附属市民総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。</li> <li>・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が 40 名在籍しています（下記）。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修や e-Learning の利用により定期開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ CPC を定期的で開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 40 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題）をしています
指導責任者	安田 元 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 40,608 名（1 ヶ月平均） 入院患者 19,878 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携 経験できる疾患群	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
学会認定施設（内科系）	日本救急医学会指導医指定施設 救急科専門医指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心臓血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認

定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定  
専門医指導施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼  
吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定  
血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 日本がん  
治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖  
尿病学会認定教育施設 内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本  
神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本超音波医学会認定  
超音波専門医制度研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本アフェシス学会認定施設  
日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 N S T稼働施設 日本救急撮影技師認定機  
構実地研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本高血圧  
学会専門医認定施設 日本急性血液浄化学会認定施設 など

## 神奈川県立循環器呼吸器病センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</li> <li>・監査・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 14 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行なう（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 11 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行なう（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 呼吸器研究会 7 回、循環器研究会 10 回）を定期的に行なうし、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、感染症、アレルギーおよび代謝の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	萩原恵里 【内科専攻医へのメッセージ】 循環器呼吸器病センターは循環器および呼吸器疾患の専門病院であり、連携施設として循環器、呼吸器疾患の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器疾患に関しては、結核を含む感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 6,870 名（1 ヶ月平均） 入院患者 321 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域、39 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本心血管インターベンション学会認定研修施設  
日本アレルギー学会教育施設  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本環境感染学会認定教育施設  
日本感染症学会認定研修施設  
日本呼吸器学会認定施設  
日本呼吸器内視鏡学会認定施設  
日本高血圧学会専門医認定施設  
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設  
など

国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・ 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。</li> <li>・ 院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所が整備されている。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が15名在籍している（下記）。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ CPC を定期的開催（2015年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 金沢区CPC 1回、消化器疾患 内科・外科・病理カンファレンス 2回 神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会 1回 呼吸器疾患医療連携セミナー 2回など 各科および複数科合同で計10回程度）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 1演題）をしている。
指導責任者	小泉晴美 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜南共済病院は神奈川県横浜南部医療圏の急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医15名、日本内科学会総合内科専門医9名 日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医5名、 日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本腎臓病学会専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医3名、 日本アレルギー学会専門医（内科）3名、日本リウマチ学会専門医2名、 日本感染症学会専門医0名、日本救急医学会救急科専門医4名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 11,215名(1ヶ月平均)      入院患者 1,278名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設（内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院          日本消化器病学会認定施設          日本呼吸器学会認定施設          日本糖尿病学会認定教育施設          日本腎臓学会研修施設          日本消化器内視鏡学会認定指導施設          日本循環器学会認定循環器専門医研修施設          日本透析医学会認定医制度認定施設          日本血液学会認定研修施設          日本神経学会専門医制度認定教育施設          日本脳卒中学会認定研修教育病院          日本呼吸器内視鏡学会認定施設          ICD/両室ペースティング植え込み認定施設          日本がん治療認定医機構認定研修施設          ステンントグラフト実施施設          日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設          日本認知症学会教育施設          日本心血管インターベンション治療学会研修施設          など</p>

国立病院機構横浜医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 国立病院機構横浜医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（厚生係担当）があります。</li> <li>・ セクハラメント苦情に対して管理課長が窓口となり幹部会議に図られています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が 12 名在籍しています（下記）。</li> <li>内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しました</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 30 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ CPC を定期的開催（2015 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 横浜藤沢消化器疾患研究会 5 回、横浜市南西部 CKD 病診連携研究会 1 回など）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・ 専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 8 体、2014 年度 13 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）を予定しています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>高橋 竜哉</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構横浜医療センターは神奈川県横浜市南西部医療圏の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの基幹施設として内科専門研修を行うと同時に横浜市立大学附属病院および附属市民総合医療センター、東京女子医科大学病院、茅ヶ崎市立病院、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、国立病院機構東京医療センター及び災害医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>



指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12名、日本内科学会総合内科専門医 8名 日本消化器病学会消化器専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 5名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2名、 日本腎臓病学会専門医 1名、日本透析医学会専門医 1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名、日本神経学会神経内科専門医 3名、 日本感染症学会専門医 1名、日本リウマチ学会専門医 1名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 5,619名(1ヶ月平均) 入院患者 386名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾 患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例 を幅広く経験することができます。
経験できる技 術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地 域医療・診療 連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携など も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ICD/両心室ペーシング植え込み認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ステントグラフト実施施設、 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など

神奈川県立がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・ 神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されている。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。</li> <li>・ 監査・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されている。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、女性専攻医は利用可能である。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研 修プログラ ムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が12名在籍している（下記）。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回（各複数回開催）、感染対策2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ CPC を定期的開催（2015年度実績 11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 神奈川肺癌呼吸器研究会11回、横浜西部消化器カンファレンス2回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験 の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動 の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績3演題）をしている。
指導責任者	金森平和 【内科専攻医へのメッセージ】 神奈川県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院であり、連携施設としてがんの基礎的、専門的医療を研修できます。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16名、日本内科学会総合内科専門医 6名 日本消化器病学会消化器専門医8名、日本循環器学会循環器専門医2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本血液学会血液専門医8名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 6,421名（1ヶ月平均） 入院患者 430名（1ヶ月平均）
経験できる 疾患群	13領域のうち、がん専門病院として6領域22疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・ 診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育特殊病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導医制度指導施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
-------------	--

済生会若草病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。</li> <li>・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境 (Wi-Fi) があります。</li> <li>・ 若草病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署 (事務室職員担当および産業医) があります。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研 修プログラ ムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・ 医療安全・感染対策講習会を定期的開催 (2015 年度実績 4 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス (2017 年度予定) を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 基幹施設である横浜南共済病院で行う CPC (2014 年度実績 3 回)、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンスは基幹病院が定期的開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験 の環境	総合内科 (特に老人医療)、肺炎、糖尿病、胃潰瘍や大腸ポリープなどの消化器疾患、悪性疾患の緩和治療、訪問診療による在宅治療などの症例を経験できます。救急分野は 1 次及び比較的軽症の 2 次救急に限ります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動 の環境	実績がなく、努力目標としています。
指導責任者	<p>岩澤 祐二</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>急性期から慢性期、更には在宅医療までカバーするケアミックス型でシームレスな応需体制を整えた病院として、地域に密着した診療を行っている。また地域の皆様の健康維持、増進の一環として、人間ドッグ、各種健康診断も行っている。</p> <p>356 日リハや心臓リハを開始するなどリハビリテーション機能の充実を図り、また化学療法や緩和ケアを強化し、患者さまのニーズに即した医療を行っている。</p> <p>このため、近隣の高次機能病院との連携を強化し、患者様の円滑な受入や病院機能の向上に努めている。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 192.4 名 (1 日平均) 入院患者 182.5 名 (1 日平均)
病床	199 床 (一般病棟 165 床 療養病棟 34 床 )
経験できる 疾患群	総合内科 (特に老人医療)、肺炎、糖尿病、胃潰瘍や大腸ポリープなどの消化器疾患、悪性疾患の緩和治療、嚥下障害などが多い。廃用症候群に対する身体的なリハビリテーションや嚥下機能の評価や嚥下訓練も行っており、自宅退院に向けた退院調整などを行っている。
経験できる 技術・技能	手技的なもので経験出来るのは、あまり多くありません。中心静脈ラインの確保やエコー検査、内視鏡検査などであれば、見学 (一部経験) が可能です。
経験できる	急性期病院から急性期治療の一段落した症例を引き受け、自宅退院に向けたリハビリテーシ

地域医療・ 診療連携	<p>ョンや退院調整を多く行っています。退院後に福祉サービスを必要とする患者に対しては、ケースワーカーやケアマネージャーなどを交えたカンファレンスを行っており、それに参加することも可能です。</p> <p>また、火曜日から金曜日までの週4日間は、午前中に訪問診療を行っています。往診医に同行して在宅医療を経験することが可能です。定期訪問のほかに、病状悪化時の往診や死亡時の看取りも行っています。</p>
学会認定施設（内科系）	なし

横須賀市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。</li> <li>・ ハラスメント委員会が横須賀市立市民病院に整備されている。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、0歳児からの保育を含め利用可能である。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が8名在籍している（下記）。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015年度実績 医療倫理3回、医療安全11回、感染対策4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ CPCを定期的に行う（2016年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2016年度実績1回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2016年度実績 1演題）をしている。Subspeciality 関連学会での発表も積極的に行っている。
指導責任者	小松 和人 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立市民病院は、三浦横須賀地区の中核病院として、三浦半島の西南部の医療を担っています。市中病院として、内科全科に専門医が在籍し、豊富なコンメンディーズを経験することができます。また、病病連携や病診連携等を通して、地域医療を学ぶことも目的としています。 単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医8名（うち日本内科学会総合内科専門医8名） 日本消化器病学会消化器専門医1名、 日本循環器学会循環器専門医2名、 日本内分泌学会専門医1名、 日本糖尿病学会専門医1名、 日本腎臓病学会専門医2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本血液学会血液専門医1名、 日本神経学会神経内科専門医1名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1名、 日本リウマチ学会専門医1名、 日本感染症学会専門医1名、 日本救急医学会救急科専門医0名、
外来・入院 患者数	外来患者 14,396名（1ヶ月平均） 入院患者 421名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内	日本内科学会認定医制度教育病院、

科系)

日本消化器病学会専門医制度認定施設、  
日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、  
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、  
日本心血管インターベンション学会研修施設、  
日本呼吸器学会専門医認定施設、  
日本腎臓学会専門医研修施設、  
日本透析医学会認定制度教育関連施設、  
日本高血圧学会専門医認定施設、  
日本血液学会専門医制度血液研修施設、  
日本神経学会専門医制度認定准教育施設、  
日本脳卒中学会認定研修教育施設、  
日本糖尿病学会認定教育施設、  
日本リウマチ学会専門医制度認定教育施設、  
日本精神神経学会専門医制度研修施設、  
日本がん治療認定医機構認定研修施設、  
日本臨床腫瘍学会認定施設  
日本甲状腺学会認定専門医施設、  
など

独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院である。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・ JCHO 病院常勤医として勤務環境が保障されている。</li> <li>・ 専攻医ひとりひとりに専用の机、本棚、ロッカー、インターネットに接続された端末が整備されている。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理科・安全衛生委員会)がある。</li> <li>・ 倫理委員会が整備されている。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室付き当直室が整備されている。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。</li> <li>・ 院内保育所は、小児科外来と密に連携している。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修 プログラムの 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が 7 名在籍している。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス(2016 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ CPC を定期的に開催(2015 年度実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス(2016 年度実 症例検討会 2 回、循環器セミナー 2 回、消化器病セミナー 1 回、計 5 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験 の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、アレルギー、膠原病、感染症および総合診療の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動 の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2016 年度実績 1 演題)をしている。 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、学会参加費の補助制度がある。和文・英文論文の筆頭著者としての執筆をサポートする体制がある。
指導責任者	小林 俊一 【内科専攻医へのメッセージ】 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。当院は、地域医療、高齢者医療、コモンディジーズの診療などに強みがあります。また、患者さん、患者さんの家族、医療スタッフとのコミュニケーション力を高め、問題解決能力を引き出すサポートをする体制を整えています。全国 57 病院からなる JCHO 病院組織の一員であることから、他の JCHO 病院との相互連携もすすめていく予定です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医(内科)1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医 5 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 5,700 名(1ヶ月平均) 入院患者 3,000 名(1ヶ月平均延数)
病床	100 床
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域のうち 9 領域の症例を経験することができます。



	週1回内科合同カンファレンスを行っており、複数の領域を横断的に診療することが可能です。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 多職種カンファレンスを積極的に行っており、チーム医療の研修を行えます。 訪問看護ステーションを併設しており、急性期医療から慢性期、在宅医療までをシームレスに研修することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本透析学会認定教育関連施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本消化器病学会認定専門医制度施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 (以上ホームページ掲載順)

## 秦野赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス相談室）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院に整備されています。</li> <li>・女性が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 10 名在籍しています。</li> <li>・医療安全・感染対策講習会を開催しています。</li> <li>・CPC を定期的に開催します。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスとして、地域医療連携懇話会を開催しています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	内科領域のうち、循環器、腎臓、血液、神経、呼吸器、感染症、糖尿病・内分泌分野専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	国内で開催される各学会への出席が可能です。
指導責任者	<p>澤田玲民</p> <p>【メッセージ】</p> <p>秦野赤十字病院は市内の中核病院として急性期医療を担っており、地域の開業医との医療連携を推進しています。総合内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科など診療内容は多岐にわたり、症例数も多いことから質の高い充実した研修を受けることができます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9名、日本内科学会総合内科専門医 4名 日本消化器病学会消化器専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本糖尿病学会専門医 1名、日本腎臓病学会専門医 1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、日本血液学会血液専門医 1名、 日本神経学会神経内科専門医 1名、日本感染症学会専門医 2名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 11,375名 (1ヶ月平均) 入院患者 6,654名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	内科系疾患のさまざまな症例を、幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療を担う病院として、救急医療や継続的な医療、高齢者医療や緩和医療を赤十字理念に基づいて実施しています。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本呼吸器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設</p> <p>日本感染症学会認定施設</p> <p>日本透析医学会認定制度認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設</p> <p>日本神経学会専門医制度教育施設</p> <p>日本頭痛学会認定教育施設</p> <p>など</p>

神奈川県立足柄上病院

認定基準【整備基準23】 1)専攻医の環境	<p>初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・神奈川県立病院機構医師として労務環境が保障されている。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。</li> <li>・ハラスメント委員会(機構本部コンプライアンス室が扱う)が整備されている。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。</li> <li>・院内保育所があり、利用可能である。</li> </ul>
認定基準【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	<p>指導医が7名在籍している(下記)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2015年度実績 医療倫理0回(2016年度1回)、医療安全23回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス(2018年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・CPCを定期的開催(2014年度実績2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス(2015年度実績3回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
認定基準【整備基準23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備している。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的開催(2015年度実績10回)している。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催(2015年度実績5回)している。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2015年度実績2演題だが、関連学会にその他に4演題を発表)をしている。</li> </ul>
指導責任者	<p>加藤佳央</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>神奈川県立足柄上病院は、神奈川県立病院機構の5病院唯一の総合病院として、機構の他病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科と協力病院とが連携して、内科医を養成するものです。また、高度の診断能力を有し、患者および患者家族のニーズを満たす適切なマネジメントを遂行可能で医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的としています。</p>
指導医数(常勤医)	<p>日本内科学会指導医8名、日本内科学会総合内科専門医7名 日本消化器病学会消化器専門医5名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本神経学会神経内科専門医1名、日本肝臓学会専門医1名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 4768名(1ヶ月平均)      入院患者 3260名(1ヶ月平均延数) 2015年度</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>

診療連携	
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定関連施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修施設など

## 国際医療福祉大学熱海病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基幹型臨床研修指定病院です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 後期臨床研修医として勤務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する組織（安全衛生委員会）があります。</li> <li>・ ハラスメント委員会が病院内に設置されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があります。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が8名在籍しています（下記参照）。</li> <li>・ 研修管理委員会を設置して、病院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2017年度実績、医療安全4回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ CPC を定期的開催（2017年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ JMECC を定期的開催（2018年度実績1回）し、専攻医に受講できるための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、血液、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>重政朝彦【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国際医療福祉大学は4つの附属病院を有し、それぞれの地域で人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。新しい専門医制度の内容に即して初期臨床研修修了後に院内内科系診療科が協力・連携するだけでなく、都市部や病院隣接の異なる医療圏での研修を通して質の高い内科医を育成するプログラムで行っていきます。また単に内科医を養成するだけでなく、全人的な医療を目指し、チーム医療・チームケアの体制のもと医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、これからの医療を担える医師を育成することを目指しています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医8名、日本内科学会総合内科専門医7名、 日本消化器病学会消化器病専門医3名、日本肝臓学会肝臓専門医1名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医4名、日本高血圧学会専門医1名、 日本老年医学会専門医1名、日本抗加齢医学会専門医1名、 日本循環器学会循環器専門医2名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医2名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医1名、日本腎臓学会腎臓専門医1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医2名、 日本神経学会神経内科専門医2名、日本脳卒中学会脳卒中専門医2名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 16,786名(1ヶ月平均)      入院患者 6,775.6名(1ヶ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち血液（3 疾患群）</p>

	と膠原病（2疾患群）を除く65疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などが経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設  日本老年医学会認定施設  日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設  日本内科学会認定医制度教育病院  日本神経学会専門医制度教育施設  日本呼吸器学会認定施設  日本糖尿病学会認定教育施設  日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設  日本アレルギー学会認定教育施設  日本消化器病学会専門医制度認定施設  日本透析医学会専門医制度認定施設  日本がん治療認定医機構認定研修施設  日本高血圧学会専門医認定施設  日本救急医学会認定救急科専門医指定施設  日本脳卒中学会認定研修教育施設  日本東洋医学会研修施設  日本腎臓学会研修施設  日本脈管学会認定研修関連施設  など</p>

## 大和市立病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・大和市常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課総務調整担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が大和市役所に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地に近接した病院の保育所と夜間院内保育室がありどちらも利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 13 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 開放病床症例検討会 4 回、大和リウマチ懇話会 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 8 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 6 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、受託研究審査会を開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>松本 裕</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大和市立病院は神奈川県の中核的な急性期病院であり、県内の高次機能病院および地域基幹病院とともに内科専門研修施設群を構成し、地域医療に貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整を包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 6,059 名（1 ヶ月平均） 入院患者 264 名（1 ヶ月平均）</p>

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など



## 大森赤十字病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修基幹型研修指定病院である。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・ 大森赤十字病院 常勤医師として勤務環境が保障されている。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。</li> <li>・ ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。</li> <li>・ 専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 14 体、2018 年度実績 7 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・ 倫理委員会を設置し、定期的開催しています。</li> <li>・ 臨床研究部門を設置し、臨床研究発表会や講演会を開催しています。</li> <li>・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 内科系学会 28 演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>澁谷 研 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で、近隣の施設と連携した内科専門研修を行います。いわゆる common disease はもちろん、重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております。当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており、医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています。私たちは、専攻医の皆様が、「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます。是非、私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が 21 名在籍している（下記）。</li> </ul> <p>日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本超音波医学会認定超音波専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本血液学会認定指導医・専門医、日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医、日本プライマリケア連合学会指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 708.4 名/日 入院患者 310.4 名/日（2018 年度実績）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会教育病院 日本腎臓学会研修施設</p>

	<p>         日本呼吸器学会認定施設          日本消化器病学会専門医制度認定施設          日本消化器内視鏡学会指導施設          日本循環器学会専門医研修施設          日本神経学会教育施設          日本老年医学会認定施設          日本糖尿病学会認定教育施設          日本消化器内視鏡学会指導施設          日本高血圧学会認定研修施設          日本呼吸器内視鏡学会関連施設          日本透析医学会教育関連施設          日本脳卒中学会認定研修教育病院          日本がん治療認定医機構認定研修施設          日本臨床細胞学会認定施設          日本感染症学会認定研修施設          日本血液学会認定血液研修施設          日本超音波医学会専門医研修施設          日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設          など       </p>
--	---

## 茅ヶ崎市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・茅ヶ崎市非常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課健康衛生担当）があります。</li> <li>・セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員会が茅ヶ崎市役所に整備されています。</li> <li>・2018年度にハラスメント対策委員会があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が <u>21</u> 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（<u>2019</u>年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（<u>2019</u>年度実績 <u>5</u>回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（<u>2019</u>年度実績 茅ヶ崎内科医会症例検討会 3回、救急症例検討会 3回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（ <u>2019</u> 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	佐藤忍 【内科専攻医へのメッセージ】 茅ヶ崎市立病院は神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 <u>19</u> 名、日本内科学会総合内科専門医 <u>15</u> 名 日本消化器病学会消化器専門医 <u>7</u> 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 <u>2</u> 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 <u>3</u> 名、 日本腎臓病学会専門医 <u>2</u> 名、日本透析医学会専門医 <u>2</u> 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 <u>5</u> 名、日本アレルギー学会専門医(内科) <u>2</u> 名、 日本リウマチ学会専門医 23 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 17,532 名(1ヶ月平均) 入院患者 9,179 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内)	日本内科学会認定医制度教育病院

科系)	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 <u>日本透析医学会専門医制度教育関連施設</u> 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など
-----	--

## 独立行政法人国立病院機構相模原病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・ 国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する窓口がある。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科指導医が 24 名在籍している（下記）。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催している（2014 年度実績医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている）。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 研修施設群共同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ CPC を定期的で開催（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。</p> <p>感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。</p>
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<p>日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしている。</p>
指導責任者	<p>責任者：森田有紀子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、相模原地域の第三番目の規模の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常（リウマチ、アレルギー）の我が国の基幹施設として臨床研究センターを併設した高度専門施設としての役割が期待されています。</p> <p>それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本透析学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医(内科)8 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 6847 名(1ヶ月平均) 入院患者 477 名(1ヶ月平均延数)</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を経験することが可能です。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設</p>

日本消化器内視鏡学会認定指導施設  
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
日本肝臓学会認定施設  
日本内科学会認定専門医研修施設  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本高血圧学会高血圧専門医認定施設  
日本心血管インターベンション治療学会研修施設  
日本神経学会専門医認定教育施設  
日本リウマチ学会認定教育施設  
など

## 独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課）、産業医がおります。</li> <li>・ハラスメントについては、相談員（男女各1名）を置き、職員の相談に対応しており、必要に応じに職員相談委員会を開催する体制が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。</li> <li>・敷地内に院内保育所を整備しています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が37名在籍しています。</li> <li>・医師臨床研修管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医にも受講を義務付けます。</li> <li>・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的で開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で5演題の学会発表をしています</p>
<p>指導責任者</p>	<p>責任医師名 永瀬 肇</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】 横浜労災病院は独立行政法人労働者健康安全機構が設置、運営する病院であり、労災疾病の診療、研究を行うとともに、横浜市北東部中核医療施設として救急診療、高度医療、がん診療、小児医療、産科医療における大きな役割を担っています。内科系のすべての領域において初診から診断、治療に至るまでの高い専門性を有する診療が行われており、また安全、倫理、感染、内科救急などの研修機会も整っています。そして、内科門研修のために何よりも重要なことは、より多くの症例を優れた指導体制の下に経験することであり、当院は専攻医が充実した専門研修ができる環境を用意しています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 22名、日本内科学会総合内科専門医 22名 日本消化器病学会消化器専門医 11名、日本循環器学会循環器専門医 6名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2名、日本腎臓病学会専門医 2名、日本透析医学会専門医 2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名、日本神経学会神経内科専門医 4名、 日本感染症学会専門医 1名、日本リウマチ学会専門医 5名、日本消化器内視鏡学会専門医 8人、ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 3,948名 (1ヶ月平均) 入院患者 562名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域, 70疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、最新医療、臨床研究を体験しつつ内科専門医に求められる患者中心の標準治療を習得し、地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設 日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医認定教育施設 (呼吸器内科) 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設など



公益社団法人地域医療振興協会 **横須賀市立総合医療センター**（うわまち病院）

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。</li> <li>・当院専攻医として勤務環境が保証されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する健康管理室があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が当院に設置されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 13 名在籍しています。（2021 年度）</li> <li>・初期および専門医研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 1 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2021 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2021 年実績 5 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域のうち、総合内科、呼吸器、消化器、循環器、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 3 演題）をしています。</li> <li>・臨床研究に必要な図書室、電子ジャーナル等を整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的（2021 年実績 12 回）を開催しています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩澤 孝昌</li> </ul> <p><b>【内科専攻医へのメッセージ】</b> 横須賀市立うわまち病院は地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています。また、人材の育成や地域寮の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器科専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器科専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 444.0 名(1ヶ月平均) 入院患者 274.8 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本病院総合医診療学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、ほか

## 国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤しています。</li> <li>・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を受け付けています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は11名在籍しています(下記)。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(診療部長)、プログラム管理者(ともに内科指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター(仮称:2023年度以降開設予定)を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2021年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催(2022年度開催予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを定期的で開催(2021年度実績2回(COVID-19影響))し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス(基幹施設:循環器症例検討会、心不全医療連携研究会、糖尿病内分泌談話会、腎疾患地域談話会、呼吸器懇話会、消化器疾患地域談話会、救急症例検討会;2021年度実績14回)を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2021年度開催実績1回:受講者6名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。</li> <li>・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できます(上記)。</li> <li>・専門研修に必要な剖検(2021年度2体(COVID-19影響))を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的で開催(2021年度実績12回)しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2021年度実績12回)しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2021年度実績4演題)をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>山田 昌代 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>横浜栄共済病院は神奈川県横浜南部医療圏の急性期病院であり、協力病院と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 306 名 (1 日平均) 入院患者 42 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本動脈硬化学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定 日本認知症学会教育施設 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

### 3) 専門研修特別連携施設

#### 港南台病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修に必要なインターネット環境 (Wi-Fi) があります。</li> <li>• 港南台病院非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>• メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署 (事務室職員担当および産業医) があります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>• 医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• 研修施設群合同カンファレンス (2018年度予定) を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• 基幹施設である済生会横浜市南部病院で行う CPC もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>• 地域参加型のカンファレンス (呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会) は基幹病院および横浜市医師会が定期的開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、内科、消化器、呼吸器、循環器およびアレルギーの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 (2015 年度実績 0 演題) を検討しています。
指導責任者	<p>大塚 裕一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>港南台病院は横浜市南部医療圏にあり、昭和 54 年の開設以来、地域医療に携わる、内科および外科を中心に 14 科を有する病院です。「地域住民の健康と福祉充実のため、全職員が力を合わせ、きめ細かい気配りで安心して治療を受けていただけるよう、地域に密着した病院をめざすこと」を基本理念とする、強化型在宅療養支援病院であり、急性期と在宅医療をつなぐ役割を担っています。</p> <p>現行の医療制度を勉強していただいたうえで、急性期医療後の Post-acute のケース、在宅医療からの Sub-acute のケース、神経難病等の慢性期医療のケース、がんのみならず高齢者慢性疾患の終末期医療のケース等、各ケースがどの入院カテゴリーの対象となるのかといった総合的な診療を研修します。また、訪問診療も担当していただき、今後高齢者医療のメインとなりうる在宅医療の実際についても研修します。在宅医療は、医師 5 名による訪問診療と往診をおこなっています。</p> <p>また医療法人傘下に、介護老人保健施設および介護付有料老人ホームを有しており、連携しながら、医療と介護の両面で地域のニーズに応えています。</p> <p>内科専門医として、必要な医療介護制度を理解し、患者様の「全身を診る医療」、治すだけでなく「支える医療」、そして「医療と介護の連携」について経験していただくことにより、地域医療を担う医師として成長する研修になるものと考えます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医/専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 月間 3,172 名 (1 日平均 146 名)、入院患者 月間 2,219 名 (1 日平均 77 名)、訪問患者数 月間 754 名 (1 日平均 31 名)、うち緊急往診件数年間 26 件 看取り件数年間 36 件等、強化型在宅医療支援病院・在宅医療のケア充実病院としての役割を果たしています。
病床	84 床 (一般病床)

経験できる疾患群	<p>研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>内科専門医に必要な技術・技能を、広く経験できます。</p> <p>この時、複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において、検査治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという観点を常に持ちながら実施していただきます。</p> <p>終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>入院診療については、高度急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療や残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整等が経験できます。</p> <p>在宅に復帰する患者については、地域の病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について、学びます。</p> <p>地域の 4 百名近い訪問患者の訪問診療を行っており、急病時の診療連携、入院受入患者診療や地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携等が必要であり、経験できます。</p>
学会認定施設（内科系）	

## 济生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム管理委員会

(2023年4月予定)

### 济生会横浜市南部病院

- 川名 一朗 (専門研修プログラム管理委員会 委員長、専門研修プログラム統括責任者、  
消化器分野責任者)
- 猿渡 力 (循環器分野責任者)
- 藤田 浩之 (血液分野責任者)
- 岩本 彩雄 (腎臓分野責任者)
- 宮沢 直幹 (呼吸器・アレルギー・感染分野責任者)
- 大久保 忠信 (リウマチ・膠原病分野責任者)
- 菱木 智 (総合内科分野責任者)
- 中江 啓晴 (神経内科分野責任者)
- 南 太一 (内分泌・代謝分野責任者)
- 佐藤 晃一 (人材開発室室長事務管理担当)

### 連携施設担当委員

- 前田 慎 (横浜市立大学附属病院)
- 平和 伸仁 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)
- 萩原 恵里 (神奈川県立循環器呼吸器病センター)
- 小泉 晴美 (横浜南共済病院)
- 西川 正憲 (藤沢市民病院)
- 森本 学 (神奈川県立病院機構神奈川県立がんセンター)
- 宇治原 誠 (国立病院機構横浜医療センター)
- 岩澤 祐二 (济生会若草病院)
- 小松 和人 (横須賀市民病院)
- 澤田 玲民 (秦野赤十字病院)
- 小林 俊一 (JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院)
- 加藤 佳央 (足柄上病院)
- 山田 佳彦 (国際医療福祉大学熱海病院)
- 澁谷 研 (大森赤十字病院)
- 松本 裕 (大和市立病院)
- 佐藤 忍 (茅ヶ崎市立病院)
- 森田 有紀子 (独立行政法人国立病院機構相模原病院)
- 永瀬 肇 (独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院)
- 岩澤 孝昌 (公益社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院)
- 山田 昌代 (国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院)

### オブザーバー (予定)

- 内科専攻医 1年生代表 1名
- 内科専攻医 2年生代表 1名
- 内科専攻医 3年生代表 1名

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが，他に異なる15疾患群の経験を加えて，合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例，「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は，済生会横浜市南部病院内科専門研修プログラム委員会が内科専門研修に相当すると認める場合に80症例まで登録できます。病歴要約も同様に14症例まで登録できます。

日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために，提示されている症例数に拘泥することなく，研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います。



## 専門研修指導医一覧

氏名	施設名	役職	専門分野			
			総合内科	循環器	血液	感染症
猿渡力	済生会横浜市南部病院	院長	総合内科	循環器		
藤田浩之	済生会横浜市南部病院	副院長	総合内科	血液	感染症	
杉森一哉	済生会横浜市南部病院	主任部長	総合内科	消化器	肝臓	
岩本彩雄	済生会横浜市南部病院	主任部長	総合内科	腎臓		
大久保忠信	済生会横浜市南部病院	主任部長	総合内科	リウマチ・ 膠原病内科		
宮沢直幹	済生会横浜市南部病院	主任部長	総合内科	呼吸器	アレルギー	感染症
菱木智	済生会横浜市南部病院	主任部長	総合内科	消化器	肝臓	
中江啓晴	済生会横浜市南部病院	主任部長	総合内科	神経		
南太一	済生会横浜市南部病院	医長	総合内科	糖尿病		
所知加子	済生会横浜市南部病院	部長	総合内科	消化器	肝臓	
石井寛裕	済生会横浜市南部病院	部長	総合内科	消化器		
久慈正太郎	済生会横浜市南部病院	部長	総合内科	循環器		
坂早苗	済生会横浜市南部病院	部長	腎臓			
中島秀明	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科	血液		
山崎悦子	横浜市立大学附属病院	准教授	総合内科	血液		
上田敦久	横浜市立大学附属病院	非常勤診療医	総合内科	リウマチ	感染症	
加藤英明	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	感染症		
浅見由希子	横浜市立大学附属病院	助教	リウマチ			
桐野洋平	横浜市立大学附属病院	講師	総合内科	リウマチ		
吉見竜介	横浜市立大学附属病院	診療講師	総合内科	アレルギー	リウマチ	感染症
高橋寛行	横浜市立大学附属病院	助教	血液			
中嶋ゆき	横浜市立大学附属病院	助教	血液			
萩原真紀	横浜市立大学附属病院	講師	血液			
宮崎拓也	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	血液		
金子猛	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科	呼吸器	アレルギー	
佐藤隆	横浜市立大学附属病院	講師	総合内科	呼吸器		
山本昌樹	横浜市立大学附属病院	講師	総合内科	呼吸器	感染症	
堀田信之	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	呼吸器		
長倉秀幸	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	呼吸器		
新海正晴	横浜市立大学附属病院	准教授	総合内科	呼吸器		
田村功一	横浜市立大学附属病院	教授	循環器	内分泌	腎臓	老年
涌井広道	横浜市立大学附属病院	助教	腎臓	総合内科		
谷津圭介	横浜市立大学附属病院	診療講師	腎臓	総合内科		
山内淳司	横浜市立大学附属病院	助教	腎臓	総合内科		
石川利之	横浜市立大学附属病院	准教授	循環器	老年	総合内科	
石上友章	横浜市立大学附属病院	准教授	循環器	総合内科		
松本克己	横浜市立大学附属病院	講師	循環器	総合内科		
中山尚貴	横浜市立大学附属病院	助教	循環器	総合内科		
橋本達夫	横浜市立大学附属病院	助教	腎臓	総合内科		
菅野晃靖	横浜市立大学附属病院	准教授	循環器			
細田順也	横浜市立大学附属病院	助教	循環器			
小村直弘	横浜市立大学附属病院	助教	循環器			
清國雅義	横浜市立大学附属病院	助教	循環器			
峯岸慎太郎	横浜市立大学附属病院	助教	循環器			
岩田究	横浜市立大学附属病院	助教	循環器			

高野桂子	横浜市立大学附属病院	助教	循環器	総合内科		
仁田学	横浜市立大学附属病院	指導診療医	循環器			
松下広興	横浜市立大学附属病院	指導診療医	循環器			
石川義弘	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科			
寺内康夫	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科	内分泌	糖尿	
伊藤謙	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	内分泌	糖尿	
青木一孝	横浜市立大学附属病院	講師	総合内科	内分泌	糖尿	
富樫優	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	内分泌	糖尿	
田島一樹	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	内分泌	糖尿	
田中章景	横浜市立大学附属病院	教授	神経			
児矢野繁	横浜市立大学附属病院	准教授	神経			
土井宏	横浜市立大学附属病院	准教授	神経	総合内科		
竹内英之	横浜市立大学附属病院	准教授	神経	総合内科		
上木英人	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	神経		
多田美紀子	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	神経		
田中健一	横浜市立大学附属病院	助教	神経	総合内科		
國井美紗子	横浜市立大学附属病院	助教	神経			
植松絵里	横浜市立大学附属病院	指導診療医	神経			
東山雄一	横浜市立大学附属病院	助教	神経	総合内科		
前田慎	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科	消化器	肝臓	
稲森正彦	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科	消化器		
芝田渉	横浜市立大学附属病院	准教授	総合内科	消化器		
佐々木智彦	横浜市立大学附属病院	助教	消化器			
須江聡一郎	横浜市立大学附属病院	指導診療医	総合内科	消化器		
近藤正晃	横浜市立大学附属病院	講師	消化器	肝臓		
田村寿英	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	消化器		
桐越博之	横浜市立大学附属病院	講師	総合内科	消化器	肝臓	
金子裕明	横浜市立大学附属病院	指導診療医	消化器			
佐藤健	横浜市立大学附属病院	診療医	消化器			
亀田英里	横浜市立大学附属病院	診療医	消化器			
中島淳	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科	消化器	肝臓	
斉藤聡	横浜市立大学附属病院	准教授	消化器	肝臓		
野中敬	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	消化器	肝臓	
窪田賢輔	横浜市立大学附属病院	教授	総合内科	消化器		
小林規俊	横浜市立大学附属病院	講師	消化器			
細野邦広	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	消化器	肝臓	
飯田洋	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	消化器		
日暮琢磨	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	消化器		
今城健人	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	消化器	肝臓	
大久保秀則	横浜市立大学附属病院	助教	総合内科	消化器		
留野渉	横浜市立大学附属病院	助教	消化器	肝臓		
藤田浩司	横浜市立大学附属病院	助教	消化器	肝臓		
結束貴臣	横浜市立大学附属病院	助教	消化器			
冬木晶子	横浜市立大学附属病院	指導診療医	消化器			
米田正人	横浜市立大学附属病院	講師	総合内科	消化器	肝臓	
本多靖	横浜市立大学附属病院	指導診療医	消化器			
佐藤高光	横浜市立大学附属病院	指導診療医	消化器			
小川祐二	横浜市立大学附属病院	助教	消化器	肝臓		
稲生優海	横浜市立大学附属病院	指導診療医	消化器			
安田元	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	腎臓		

大野滋	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	リウマチ			
峯岸薫	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	リウマチ			
国崎玲子	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	消化器		
小柏剛	横浜市立大学附属市民総合医療センター	指導診療医	消化器			
木村一雄	横浜市立大学附属市民総合医療センター	教授	循環器			
海老名俊明	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	循環器		
日比潔	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	循環器			
前島信彦	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	循環器		
岩橋徳明	横浜市立大学附属市民総合医療センター	講師	総合内科	循環器		
木村裕一郎	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	循環器		
松澤泰志	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	循環器			
沼田和司	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	消化器			
中馬誠	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	消化器	肝臓		
福田浩之	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	消化器			
平澤欣吾	横浜市立大学附属市民総合医療センター	講師	消化器			
原浩二	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	消化器	肝臓	
三輪治生	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	消化器			
三浦雄輝	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	消化器		
工藤誠	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	呼吸器	アレルギー	感染症
小林信明	横浜市立大学附属市民総合医療センター	講師	総合内科	呼吸器	感染症	
下川路伊亮	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	呼吸器		
篠田雅宏	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	呼吸器			
藤澤信	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	血液			
本橋賢治	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	血液		
石井好美	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	血液		
宮下和甫	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	血液			
平和伸仁	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	循環器	内分泌	腎臓
藤原亮	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科	腎臓		

山川正	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	内分泌	糖尿	
上田直久	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	神経			
岸田日帯	横浜市立大学附属市民総合医療センター	講師	神経	総合内科		
斎藤真理	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	消化器		
萩原彰人	横浜市立大学附属市民総合医療センター	助教	総合内科			
野崎昭人	横浜市立大学附属市民総合医療センター	准教授	総合内科	消化器	肝臓	
石井泰明	横浜市立大学附属市民総合医療センター	診療医	消化器			
築地淳	横浜市立大学附属市民総合医療センター	講師	総合内科	呼吸器	アレルギー	感染症
鈴木ゆめ	横浜市立大学附属市民総合医療センター	教授	神経			
常田康夫	藤沢市民病院	副院長	総合内科	腎臓		
西川正憲	藤沢市民病院	診療部長	総合内科	呼吸器	アレルギー	
姫野秀朗	藤沢市民病院	医療支援部長	循環器			
藤巻克通	藤沢市民病院	部長	総合内科	血液		
岩瀬滋	藤沢市民病院	部長	総合内科	消化器	肝臓	
高野達朗	藤沢市民病院	部長	総合内科	糖尿		
小山主夫	藤沢市民病院	部長	神経			
阿南英明	藤沢市民病院	センター長	総合内科	消化器	救急	
草野暢子	藤沢市民病院	室長	総合内科	呼吸器	アレルギー	
赤坂理	藤沢市民病院	副センター長	総合内科	消化器	感染症	救急
安藤大作	藤沢市民病院	医長	総合内科	腎臓		
前田晃延	藤沢市民病院	医長	総合内科	腎臓		
塚原健吾	藤沢市民病院	部長	総合内科	循環器		
野崎万希子	藤沢市民病院	医長	総合内科	救急		
増田誠	藤沢市民病院	医長	総合内科	呼吸器	アレルギー	
水堂祐広	藤沢市民病院	医長	総合内科	呼吸器	感染症	
横山睦美	藤沢市民病院	医長	総合内科	神経		
吉浦辰徳	藤沢市民病院	医長	総合内科	腎臓		
小泉晴美	横浜南共済病院	部長	総合内科	呼吸器		
藤井洋之	横浜南共済病院	部長	総合内科	循環器		
岡裕之	横浜南共済病院	部長	消化器			
西崎光弘	横浜南共済病院	副院長	総合内科	循環器		
長岡章平	横浜南共済病院	副院長	アレルギー	リウマチ		
五味聖二	横浜南共済病院	院長補佐	総合内科	血液		
山分規義	横浜南共済病院	部長	総合内科	循環器		
岡崎博	横浜南共済病院	部長	消化器	肝臓		
金子卓	横浜南共済病院	医長	総合内科	消化器		
高橋健一	横浜南共済病院	院長補佐	呼吸器	アレルギー		
田近賢二	横浜南共済病院	部長	総合内科	血液		
清水雅人	横浜南共済病院	部長	循環器			
城村裕司	横浜南共済病院	部長	総合内科	神経		
岡田雅仁	横浜南共済病院	センター長	神経			
出口治子	横浜南共済病院	部長	総合内科	アレルギー	リウマチ	
宇治原誠	国立病院機構横浜医療センター	副院長	総合内科	内分泌		
高橋竜哉	国立病院機構横浜医療センター	神経内科部長	総合内科	神経		

岩出和徳	国立病院機構横浜医療センター	外来診療部長	循環器			
松島昭三	国立病院機構横浜医療センター	医療情報部長	総合内科	消化器	肝臓	
井畑淳	国立病院機構横浜医療センター	リウマチ科部長	総合内科	リウマチ	感染症	
松下啓	国立病院機構横浜医療センター	腎臓内科部長	総合内科	循環器	腎臓	
後藤秀人	国立病院機構横浜医療センター	呼吸器科医長	総合内科	呼吸器		
森文章	国立病院機構横浜医療センター	循環器科部長	循環器			
小松達司	国立病院機構横浜医療センター	臨床研究部長	総合内科	消化器	肝臓	
網代洋一	国立病院機構横浜医療センター	循環器科部長	循環器			
鈴木大輔	国立病院機構横浜医療センター	消化器科医長	消化器			
野登はるか	国立病院機構横浜医療センター	消化器科医師	総合内科	消化器	肝臓	
小倉高志	神奈川県立循環器呼吸器病センター	副院長	総合内科	呼吸器		
萩原恵里	神奈川県立循環器呼吸器病センター	部長	総合内科	呼吸器	感染症	
小松茂	神奈川県立循環器呼吸器病センター	部長	総合内科	呼吸器	アレルギー	
大河内稔	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	総合内科	呼吸器		
篠原岳	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	総合内科	呼吸器	アレルギー	
馬場智尚	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	総合内科	呼吸器		
北村英也	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	呼吸器			
関根朗雅	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	総合内科	呼吸器		
奥田良	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	総合内科	呼吸器		
織田恒幸	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	呼吸器			
山川英晃	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医師	呼吸器			
池田慧	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医師	呼吸器			
福井和樹	神奈川県立循環器呼吸器病センター	部長	総合内科	循環器		
濱井順子	神奈川県立循環器呼吸器病センター	医長	内分泌	糖尿		
大川伸一	神奈川県立がんセンター	院長	消化器	肝臓		
朝比奈茂	神奈川県立がんセンター	部長	総合内科	循環器		
金森平和	神奈川県立がんセンター	部長	総合内科	血液		
山田耕三	神奈川県立がんセンター	部長	呼吸器			
本橋修	神奈川県立がんセンター	部長	消化器			
森本学	神奈川県立がんセンター	部長	消化器	肝臓		
酒井リカ	神奈川県立がんセンター	部長	総合内科			
齋藤春洋	神奈川県立がんセンター	医長	呼吸器	アレルギー		
上野誠	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	消化器	肝臓	
高崎啓孝	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	血液		
沼田歩	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	血液		
田中正嗣	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	血液		
小林智	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	消化器		
村上修司	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	呼吸器		
加藤晃史	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	呼吸器		
立花崇孝	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	血液		
井口靖弘	神奈川県立がんセンター	医長	総合内科	消化器		
小松和人	横須賀市立市民病院	副院長	総合内科	消化器		
国保敏晴	横須賀市立市民病院	科長	総合内科	腎臓		
山口展弘	横須賀市立市民病院	科長	総合内科	呼吸器		
小川浩司	横須賀市立市民病院	部長	血液			
原野浩	横須賀市立市民病院	部長	血液			
平田順一	横須賀市立市民病院	科長	神経			
奥田純	横須賀市立市民病院	部長	循環器			
杉本孝一	横須賀市立市民病院	部長	総合内科	循環器	腎臓	
澤田玲民	秦野赤十字病院	院長補佐	総合内科	循環器		

後藤英司	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	院長	循環器			
小林俊一	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	副院長	総合内科	循環器		
大澤正人	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	医長	総合内科	腎臓		
岡本芳久	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	診療部長	総合内科	糖尿病		
下条正子	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	部長	総合内科	糖尿病		
吉田伸一郎	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	部長	総合内科	腎臓		
加藤佳央	神奈川県立足柄上病院	副院長	総合内科	消化器		
吉江浩一郎	神奈川県立足柄上病院	部長	総合内科	消化器		
内藤誠	神奈川県立足柄上病院	部長	神経			
松下広興	神奈川県立足柄上病院	医長	循環器	総合内科		
尾下文浩	神奈川県立足柄上病院	部長	呼吸器	総合内科		
岩淵敬介	神奈川県立足柄上病院	医長	総合内科	消化器		
國司洋佑	神奈川県立足柄上病院	医長	消化器	総合内科	肝臓	
佐藤哲夫	国際医療福祉大学熱海病院	病院長	総合内科	呼吸器		
小野孝彦	国際医療福祉大学熱海病院	センター長	総合内科	腎臓		
永山正雄	国際医療福祉大学熱海病院	副院長	総合内科	神経	救急	
北岡哲治	国際医療福祉大学熱海病院	教授	消化器			
星野誠	国際医療福祉大学熱海病院	教授	総合内科	呼吸器	アレルギー	
延山誠一	国際医療福祉大学熱海病院	教授	呼吸器			
横山健	国際医療福祉大学熱海病院	講師	総合内科	腎臓		
重政朝彦	国際医療福祉大学熱海病院	副院長	総合内科	循環器	内分泌	
山田佳彦	国際医療福祉大学熱海病院	教授	総合内科	内分泌	糖尿病	
松本裕	大和市立病院	診療部長	総合内科	呼吸器		
竹下康代	大和市立病院	担当部長	総合内科	腎臓		
山本和寿	大和市立病院	上級医長	総合内科	消化器	肝臓	
橋本千寿子	大和市立病院	上級医長	総合内科			
柳田直毅	大和市立病院	医長	総合内科	消化器		
亀田亮	大和市立病院	医長	消化器			
浅見昌樹	大和市立病院	医長	総合内科	消化器		
井上聡	大和市立病院	担当部長	総合内科			
高橋謙一郎	大和市立病院	上級医長	糖尿病			
岡本光生	大和市立病院	医長	総合内科			
吉澤智治	大和市立病院	医長	循環器			
片佑樹	大和市立病院	医長	呼吸器			
服部友歌子	大和市立病院	医長	総合内科			
中瀬浩史	大森赤十字病院	院長	神経			
後藤亨	大森赤十字病院	副院長	消化器			
諸橋大樹	大森赤十字病院	部長	消化器			
井田智則	大森赤十字病院	副部長	消化器			
千葉秀幸	大森赤十字病院	副部長	消化器			
持田泰行	大森赤十字病院	部長	循環器			
神原かおり	大森赤十字病院	部長	循環器			
澁谷研	大森赤十字病院	部長	腎臓			
北里博仁	大森赤十字病院	部長	糖尿病	内分泌		
久武純一	大森赤十字病院	部長	血液			

石原晋	大森赤十字病院	副部長	血液			
前田伸也	大森赤十字病院	部長	神経			
鈴木葉子	大森赤十字病院	部長	神経			
山田美菜子	大森赤十字病院		神経			
川上真吾	大森赤十字病院	副部長	神経			
伊藤絢	大森赤十字病院		神経			
太田宏樹	大森赤十字病院	副部長	呼吸器			
安部開人	大森赤十字病院		循環器			
新倉利啓	大森赤十字病院		消化器			
有本純	大森赤十字病院		消化器			
河野直哉	大森赤十字病院		消化器			
佐藤 忍	茅ヶ崎市立病院	主任部長	内分泌			
中戸川 知頼	茅ヶ崎市立病院	主任部長	循環器	救急		
福田 勉	茅ヶ崎市立病院	主任部長	呼吸器	アレルギー		
秦 康夫	茅ヶ崎市立病院	主任部長	総合内科	血液	感染	
栗山 仁	茅ヶ崎市立病院	主任部長	消化器			
宮崎 秀健	茅ヶ崎市立病院	主任部長	神経			
増田 真一郎	茅ヶ崎市立病院	主任部長	腎臓			
須田 昭子	茅ヶ崎市立病院	主任部長	リウマチ			
森田 有紀子	国立病院機構相模原病院	内科系診療部長	循環器			
福岡 正浩	国立病院機構相模原病院	医長	循環器			
山本 明日香	国立病院機構相模原病院	医員	循環器			
高橋 広軌	国立病院機構相模原病院	医員	循環器			
松井 利浩	国立病院機構相模原病院	診療部長	膠原病			
荻原 秀樹	国立病院機構相模原病院	医長	膠原病	腎臓		
津野 宏隆	国立病院機構相模原病院	主任部長	膠原病			
児玉 華子	国立病院機構相模原病院	医員	膠原病			
野木 真一	国立病院機構相模原病院	医員	膠原病			
安達 献	国立病院機構相模原病院	副院長	消化器			
篠木 啓	国立病院機構相模原病院	科長	消化器			
菅野 聡	国立病院機構相模原病院	医長	消化器			
中村 陽子	国立病院機構相模原病院	非常勤	消化器			
関谷 潔史	国立病院機構相模原病院	部長	アレルギー			
渡井 健太郎	国立病院機構相模原病院	医長	アレルギー			
濱田 裕斗	国立病院機構相模原病院	医員	アレルギー			
上出 庸介	国立病院機構相模原病院	医長	呼吸器			
劉 楷	国立病院機構相模原病院	医員	呼吸器			
長谷川 一子	国立病院機構相模原病院	医長	神経			
川浪 文	国立病院機構相模原病院	医長	神経			
富樫 尚彦	国立病院機構相模原病院	医長	神経			
平澤 晃	横浜労災病院	部長	血液			
永瀬 肇	横浜労災病院	部長	消化器			
齋藤 淳	横浜労災病院	部長	内分泌			
鶴谷 悠也	横浜労災病院	部長	糖尿病			
波多野 道康	横浜労災病院	部長	腎臓			
森戸 卓	横浜労災病院	副部長	腎臓			
北 靖彦	横浜労災病院	部長	リウマチ			
藤原 道雄	横浜労災病院	部長	膠原病			
有岡 仁	横浜労災病院	部長	腫瘍	緩和		

伊藤 優	横浜労災病院	部長	呼吸器			
小澤 聡子	横浜労災病院	部長	アレルギー			
柚本 和彦	横浜労災病院	部長	循環器			
長田 淳	横浜労災病院	部長	循環器			
小和瀬 晋弥	横浜労災病院	副部長	循環器			
山本 晴義	横浜労災病院	部長	精神			
今福 一郎	横浜労災病院	部長	脳卒中	神経		
中山 貴博	横浜労災病院	部長	神経			
関野 雄典	横浜労災病院	副部長	消化器			
安部 慎治	横浜労災病院	部長	循環器			
佐藤 忠嗣	横浜労災病院	部長	血液			
中森 知毅	横浜労災病院	部長	救急	神経	脳卒中	
三田 直人	横浜労災病院	副部長	救急	災害		
内山 詩織	横浜労災病院	副部長	消化器			
金沢 憲由	横浜労災病院	副部長	消化器			
松永 敬一郎	横須賀市立うわまち病院	顧問	総合内科	リウマチ	アレルギー	
福味 禎子	横須賀市立うわまち病院	部長	総合内科	リウマチ	血液	
三浦博太郎	横須賀市立うわまち病院	顧問	呼吸器	感染症	アスベスト	
志村 岳	横須賀市立うわまち病院	部長	腎臓			
沼田 裕一	横須賀市立うわまち病院	管理者	循環器			
岩澤 孝昌	横須賀市立うわまち病院	副病院長	循環器			
黒木 茂	横須賀市立うわまち病院	部長	循環器			
荒木 浩	横須賀市立うわまち病院	部長	循環器			
池田 隆明	横須賀市立うわまち病院	副病院長	消化器			
本多 英喜	横須賀市立うわまち病院	副病院長	救急			
神尾 学	横須賀市立うわまち病院	部長心得	総合内科	救急		
上原 隆志	横須賀市立うわまち病院	部長心得	呼吸器			
山田昌代	横浜栄共済病院	部長	内分泌代謝	糖尿病		
野末 剛	横浜栄共済病院	診療部長	循環器			
押川 仁	横浜栄共済病院	部長	腎臓			
道下一朗	横浜栄共済病院	副院長	循環器			
岩城 卓	横浜栄共済病院	部長	循環器			
大島祐太郎	横浜栄共済病院	医長	循環器			
酒井英嗣	横浜栄共済病院	部長代行	消化器病	肝臓	消化器	
清水智樹	横浜栄共済病院	副部長	消化器病	消化器		
真田治人	横浜栄共済病院	部長	消化器病	消化器		
三浦健次	横浜栄共済病院	部長	呼吸器			
仲野 達	横浜栄共済病院	部長	神経内科			